令和２年度　学校評価総括表　伊丹市立こうのいけ幼稚園

教育目標	豊かな心をもって、生き生きと遊ぶ子供の育成
重点目標	安全・安心な教育環境のもと、「子供主体」の遊びを支え、子供の主体性を育む教育を推進する

項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	生きる力の基礎を育む	主体性の育み	・教育課程をもとに保育実践を進めながら、36ヵ月の保育を見通す。 ・子供の主体性を育むための保育実践や子供の姿を職員間で語り合い、子供理解を深める。 ・園内研究会を学期に２回実施し、研究協議を重ね、主体的に遊ぶ子供の姿を捉え、遊びを通した子供の学びを支える保育活動を進める。	・子供の姿から教育課程を見直し、本園ならではの教育課程になるよう見直す。 ・園内研究会や、研究協議を行うと共に、職員間の語り合いを日常的に取り入れる。 ・保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、子供の発達や興味関心に応じた保育を行い、子供達の意欲や主体性が育まれるように努めている」「子供は、入園前よりも『自らいきいきと遊ぶ子』に育っていると感じる」「幼稚園は、子供に経験させたい遊びを工夫して取り入れていることを保育ドキュメンテーションやクラスだよりから感じられた」と回答した割合が、それぞれ80%以上になる。	A	・今年度の状況の中での各学期の子供の育ちや学びを振り返り、教育課程の見直しができた。 ・学期に一回以上に園内研究会を行い、実践事例協議やオンラインを利用した講師助言の研究協議を行い、年齢ごとの育ちや、互いの保育実践や子供理解について語り合い、教師間での共通理解に努めた。 ・子供の主体性を育む保育や、日常の子供の姿を読み取ったエピソード記録についてのカンファレンスを行い、職員間での語り合いの機会を日常的にもち、保育実践につなげた。 ・アンケート結果は、三設問とも９８%以上の肯定的な回答があり、子供の主体性を育むための保育実践に努めていることが評価された。	・今年度見直した教育課程を実践しながら、36か月の子供の育ちを見通した保育実践を目指す。また、3年保育4歳児の教育課程について、本園ならではのものとなるよう見直しを図っていく。 ・継続して計画的な園内研究会や実践事例協議を行い、教職員の保育実践力の向上やチームとして子供の学びを支える保育の質の向上に努める。 ・子供の主体的な姿を捉える子供理解や、主体的な遊びを支える教師の役割について今年度の学びを明らかにし、次年度の保育のさらなる充実につなげる。	・子供達がやりたいと思う環境を整えておられることが、子供の主体性を育み、そのように工夫されていることが素晴らしい。 ・保護者へのアンケートによる客観的評価において、高評価を得ているとともに、２月に参観した５歳児さくら組の劇遊び遊び 「みつばちマーヤの冒険」を観劇し、それぞれの子ども達のまさに主体性、個性発揮を重要視された先生方の取り組みの成果であろうと評価する。
		自然環境の活用	・園庭の自然物を遊びに取り入れられるように整備しながら植物や生き物の命の大切さについて子供に伝え、子供が遊びに使いながら大切に扱えるようにする。 ・週案のなかに自然に関する項目を入れ、週案やドキュメンテーションで自然に関わる子供の姿を伝える。 ・『園内自然環境の四季』について「みつけたよ、こうのいけようちえんのしぜん」を作成する。	・自然と触れ合える遊びの環境整備をしたり、教師がモデルとなり大切に扱ったりすることで、必要な分を考えて遊びに使ったり、自然を愛する子供の姿が増える。 ・幼稚園の自然を使った遊びの環境構成の項目を週案の中に入れて作成する。 ・視覚教材を活用し、保育の創造、子供の自然環境への関心を高める。	A	・子供が、遊びの中で自然物に触れて観察して図鑑で調べようとしたり、手に取って観察したり、色水遊びに使ったりしていた。また、台柿やさつまいも、四季の折々の野菜の栽培を通して、種から育てたものや、苗から生長する様子を経験した。その仕組みや不思議さを感じたり、旬の物を食べる喜びを感じたりしながら、育まれた命の尊さを感じることができた。 ・落ち葉や、枯れ葉、木の棒等、季節によって触れ合うことが出来る自然物を遊びに取り入れて、遊びを深める経験ができた。 ・自然物の環境の使い方を伝えたり、教師が一緒に遊びを通して伝えたりしながら、大事に使うことが出来た。 ・季節に応じた自然環境に触れ合う機会を設けるために、週案の中に取り入れることによって、子供が自ら自然に関わることが出来、その様子を写真にとってドキュメンテーションにして伝えることができた。また、その達成度を教師間で話し評価し合い、翌週の計画を立てることが出来た。 ・絵本や図鑑等の視覚教材を活用したことで、実物と照らし合わせて、子供が興味をもって見たり調べたりしようとする姿があった。	・子供が四季を感じながら、心豊かに自然を取り込んだ遊びや体験が増えて、その成長を通して命の育みや尊さを感じる体験をし、感性を育てる教育環境が整うように、引き続き園庭の自然環境の改善を継続していく。 ・一年を見通した、栽培計画を立て、詳細を週案の中に意識して取り入れ実践していく。 ・自然環境を題材にした絵本の購入をし、子供自ら不思議に思ったことを調べたり、気付いたりと、思考力の芽生えにつながる保育室の環境構成に自然物と共に取り入れていく。	・豊かな自然環境の中、子供達が思い思いに活動できていて、そこには教師の意図があると感じた。 ・花等の種類がとても充実している。 ・夏は泥遊びが出来たり、冬には落ち葉で遊べたり使えるものは何でも遊び道具になっていて、家庭では出来にくいことが園では取り入れてくれていると感じます。 ・保護者へのアンケートによる客観的評価において、高評価を得ているとともに、今年度は新コロナウイルス感染症感染拡大防止の為、参観の機会が少なかったが、園舎付近を通る際に拝見する、施設、設備を活用した園庭、樹木、そして落ち葉の自然化に取組まれ、子供たちの創造醸成に寄与されて様子に対し評価する。
	一人一人を大切にする教育	すべての子供のための教育推進	・個別指導計画を作成し職員・保護者間で話し合う。一人一人の子供の特性や支援を学び合う。 ・個別な支援を必要とする子供だけに限らず、すべての子供の育ちや課題等について職員間で情報共有・共通理解を図る。 ・子供の発達に即した教材の選択や子供の困り感に寄り添う支援の作成工夫に取り組む。 ・必要に応じて、巡回相談や外部専門機関との連携を図る。	・個別指導計画に基づいた保育について、日常においての情報交換を交わし、子供理解、適した保育推進に努める。 ・有視覚教材や写真を使用した表示を作成・使用し、わかりやすい支援を行う事で、子供が園生活を自分の力で進めやすくなる。 ・保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、個々の発達や特性に応じた指導を行い、ひとりひとりを大切にした教育を行っている」「子供は、入園前よりも『人を大切にし、よさや違いを認め合い育ち合う子』に育っている」と回答した割合がそれぞれ80%以上になる。	B	・一人一人の子供の生活体験の違いや発達の課題を理解できるよう、職員間の情報交換に努めた。子供が園生活で抱える困り感に寄り添う支援を行った。 ・トイレに表示をつけて抵抗なく行けるようにする、持ち物の準備が子供自らスムーズにできるような表示・カードなど、視覚支援教材などを用いて必要な時・必要な場所に掲示するなどの環境を整えどの子供にも分かり易く、過ごしやすくなるようにした。 ・3学年を二人の特別支援教育の担当者が支援にあたり、曜日や行事に柔軟に対応した。子供の実態に応じて家庭と教師間の連携が必要であった。必要に応じて外部専門機関（あすぱる・教育相談・絵両発達相談・言葉の教室など）との連携をし園での教育に取り入れた。 ・ねらいの明確化を行い、個の特性に応じた指導計画を立て支援に努めた。 ・保護者アンケートにおいては、「幼稚園は、個々の発達や特性に応じた指導を行い、ひとりひとりを大切にした教育を行っている」「子供は、入園前よりも『人を大切にし、よさや違いを認め合い育ち合う子』に育っている」と回答した割合がそれぞれ95%以上の肯定的な評価を得ることができた。	・36 ヶ月の子供の育ちに見通しをもった長期目標のもと、引き続き一人一人を大切に育てていくため個の発達や特性に応じた指導計画と保育支援の実践に取り組んでいく。 ・外部機関とも連携し専門的な意見を仰ぐ。職員簡においては日頃から大切なことは短時間で情報交換ができるよう、連携の方法や工夫に努め共通理解を図る。 ・子供の発達に応じた支援教材の選択・環境構成を考え、すべての子供の分かり易く心地よい園生活の工夫・改善に取り組んでいく。 ・子供理解のため専門知識や見地が身につくよう積極的に研修に参加する。	・一人一人の子供の良さや個性を認められ、きめ細かい支援をされていると感じた。そのことは子供同士の中にもつながると思います。 ・今年度から３年保育ということで園の運営システムが大きく様変わりするなかで、且つ障害児童の積極的受け入れもされ、園児全体の最大公約数的な取り組みではなく、園児一人ひとりを大切にした最小公倍数的な取り組みに意を注がれ、重要視されている事は評価できる。その結果として保護者アンケートでの「子どもは入園前よりも『人を大切にしよさや違いを認め合い育ち合う子』に育っている」につながっている。

豊かな心・健やかな体	思いやりの心の育成	生命の尊重・道徳性の芽生え	・飼育栽培活動を行い、身近に生命を感じる環境や自然環境を構成する。 ・自然な生活の中での異年齢のかかわりと共に、３年保育ならではの生活の場を設定する。 ・子供が友達に対して「一人一人違いがあることの素晴らしさ」が感じられるよう、その子供らしさを大切にした保育の工夫に努める。 ・教師自身の道徳性を高め、常に人権感覚を磨く意識をもつ。	・年下の友達や年上の友達と関わる場や機会の工夫と、子供の事実を職員間で検討し、思いやりの心を育む保育を実践する。 ・保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、誕生会や飼育栽培活動、身近な自然環境を取り入れた保育活動等、命にふれる機会を設け、命の大切さを感じさせている」「幼稚園は、自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えている」「子供は、入園前よりも『自分を大切にし、友達や命あるものに思いやりをもったやさしい子』に育っていると感じる」と回答した割合が、それぞれ８０%以上になる。	A	・園庭の好きな遊びを通して異年齢で関わる遊びが出来た。職員全員で子供の気持ちや遊びを見守ったり、声かけをしたりしながら個の育ちや、小集団の育ちを育んでいった。保育後には職員間で遊びの様子を語り合う時間を設け、思いやりの気持ちを育める保育の実践に取り組んだ。 ・生き物が幼虫からさなぎ、成虫になるまでの生長の様子を見たり、ウサギの世話や虫や魚の飼育を通して命の育みを体験したりすることが出来た。 ・毎月の誕生会に参加したり、誕生児に気持ちを向けて製作をする経験を通したりしながら、一人一人の成長を喜び合う機会を設けることが出来た。 ・アンケート結果はそれぞれ９０%以上の肯定的な回答があり、「幼稚園は、誕生会や飼育栽培活動、身近な自然環境を取り入れた保育活動等、命にふれる機会を設け、命の大切さを感じさせている」「幼稚園は、自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えている」「子供は、入園前よりも『自分を大切にし、友達や命あるものに思いやりをもったやさしい子』に育っていると感じる」と肯定的な意見が得られた。	・体験を通して学べるように、命の尊さや成長の喜びを分かち合う機会を日常的の中でもつ。 ・日々の保育の中で教師や友達と関わり、色々な気持ちがあることを知ったり、感じたりする経験を通し、自己肯定感、他者尊重が育めるように努めていく。 ・誕生会や飼育活動は、学年や年齢に応じて工夫して進められるようにしていく。 ・身近な虫に興味関心がもて、小さな虫や種にも命があることを日々の保育の中で体験を通して学べる意図した環境構成に努める。	・遊びを通して、子供同士のつながりができ、そのことは思いやりの心を育むものと思う。 ・昆虫を触れなかった子供がダンゴムシをつまんでたり、関心を持てるようになってたりすることが見えました。 ・3 年保育になったことで、異学年との関わりが増えて、お兄さんお姉さんの自覚が顕著に現れていると思います。 ・保護者へのアンケートによる客観的評価において、其々高評価を得ているとともに、園での他者への思いやりを大切にする心を育むことはもとより、今社会から求められている子どもたちの自己肯定感、即ち自分を大切にする心の醸成への取り組みに大いに努力をされている事に対し評価する。
	健やかな体作り	基本的生活習慣の確立	・子供が自分の体や生活習慣に関心をもつよう月１回発達に応じた保健指導、げんきカレンダーを実施する。 ・保護者啓発として月１回「ほけんだより」を発行する。 ・自分と他者の命を守る為の新型コロナ感染症対策を指導、実施していく。	・保護者アンケートにおいて「『ほけんだより』や親子で取り組む『げんきカレンダー』は、健康な生活を意識する機会となっている」「子供は、入園前よりも「基本的生活習慣や健康な生活について、意識をもち自ら取り組もうとする姿」が見られるようになったと感じる」と回答した割合が、それぞれ８０%以上になる。	B	・月一回保健指導、げんきカレンダーの実施「ほけんだより」の実行等は、それぞれ計画通りに行えた。 ・アンケート結果で９０%以上の評価が得られ、基本的生活習慣の確立に向けた保育実践が評価された。 ・新型コロナ感染症対策で、手洗い、マスクの着用などを指導、実施し感染症予防に努めた。	・今後も「ほけんだより」「げんきカレンダー」を通じて、生活習慣や健康に関する情報を周知し、発達に応じた内容や時期について再検討し、わかりやすく実施していく。 ・保健指導では、発達に応じた教材や掲示の工夫をし、生活習慣の確率を目指していく。 ・引き続き、自分と他者の命を守るために発達に応じた感染症対策を行っていく。	・基本的生活習慣をつけるためにも保護者への啓発は大切である。 ・げんきカレンダーは子どもが楽しみながら健康について考えるよい取り組みである。 ・感染症対策についての内容が多く、子供も健康的に向き合えて、コロナだけでなく、インフルエンザ等の予防にもつながり、良かったと思う。コロナが終息しても続けてほしい。 ・保護者へのアンケートによる客観的評価において、其々評価を得ているとともに、基本的生活習慣は毎年、毎月、毎日繰り返し、繰り返し経験することが基本である事を念頭に置かれ園と、家庭一体となっての取り組まれている事にことに対し評価する。
開かれ信頼される学校園	教育活動への理解の推進	園情報の積極的な発信	・月１回の参観を実施する。 ・日頃の様子や行事についてホームページを更新し（月３回以上）、写真等で、積極的にかつ継続的に園の情報を発信する。 ・ドキュメンテーション（月１回以上）を活用し教育活動や、子供の学びの可視化を図る。 ・子供の学びを視点としたクラスだより、園長だよりの発行、掲示板の更新を行う。	・参観の実施、たよりやホームページ、ドキュメンテーション、掲示板での情報発信を継続して行う。 ・ドキュメンテーション作成の際には、子供の姿から学びの視点を明確にする。 ・保護者アンケートにおいて、「参観や個人懇談は、子供の幼稚園での様子を知るよい機会となっている」「園だよりやクラスだより、ホームページや掲示ボード、ドキュメンテーション等は、幼稚園での行事や活動の様子、園の教育方針、子供の学びや育ち等を知るのに役立っている」と回答した割合が、それぞれ８０%以上になる。	B	・参観は、数回であったが、感染症対策を行い工夫して実施することができた。 ・ホームページの更新は各クラスが月に一度は更新することができるよう、予定に位置づけた。 ・ドキュメンテーションの更新はほぼ達成でき、子供の姿と共に学びの視点を保護者に伝わりやすく書くことを意識できた。 ・掲示板は、ほぼ定期的な更新ができた。年度途中より、大きいサイズの写真を使い、見やすく目を引くレイアウトを意識することで、より伝わりやすいものになった。 ・クラスだよりでも、子供の姿だけでなく学びの視点を意識して書くことで保護者に伝えることができた。 ・アンケートの結果では９８%の肯定的な回答があり、子供の学びや育ちが伝わっていることがわかった。	・感染症対策やねらい基づいた参観計画を見直し、計画的に取り組んで行く。 ・今年度園務日程に位置づけた、ホームページの更新、掲示板の更新は時間マネジメントを行い計画的に取り組む。 ・園舎外の掲示板も定期的に更新していることを年度当初に啓発する。 ・引き続いて、読みやすく、子供の育ちや学びが伝わりやすいクラスだよりやドキュメンテーションの内容を工夫する。	・園での子供の様子、教師の取り組みを知ることも大切な取り組みである。 ・ホームページの更新回数が少ない。 ・ドキュメンテーションのコメントも見やすく配置され工夫してくれていたと思います。ただ、３学年分を掲示するには少しボードが小さいような気もします。 ・保護者へのアンケートによる客観的評価において、其々高評価を得ているとともに、国に於いてもＩＴ化、デジタル化の推進が叫ばれるなか、園に於いては既にホームページが開設されており、リアルタイムの情報を提供することが出来る利便性の高いツールではあるものの、その更新には時間とマンパワーが必要である。幼稚園業務をこなしながら目標である月３回以上の更新を実現され、タイムリーに情報提供されている事は評価できる。

	安心で安全な園作り	危機管理の徹底	・年度当初に全職員で子供の生活環境を見回り、危険箇所の共通理解と改善を行う。 ・学校安全計画、事件事故への対応マニュアル及び防災計画、洪水時の避難確保計画を職員全員で確認する。 ・安心安全に幼稚園生活を送ることができるよう、全職員で共通理解する方法を工夫する。 ・月１回安全点検を実施し破損や危険箇所（設備、害虫等）があれば速やかに対応・改善する。 ・様々な事象を予想した避難訓練（洪水、火災、地震、防犯）・通報訓練（火災、県警ホットライン）を実施する。 ・一斉メールを活用した緊急時の保護者への連絡と引渡しの訓練を実施する。 ・日々の生活の中で、発達年齢に応じた防災、安全な過ごし方について指導していく。	・計画と子供の実態に即して園児への安全指導（日常の生活、幼年消防クラブ活動、交通安全指導含む）を行う。 ・年４回避難訓練及び通報訓練を実施し、反省点を踏まえてマニュアルや各計画を見直す。 ・職員の危機管理意識を強化するため、日常ヒヤリハットを迅速に伝達し合う。 ・安全カード、一斉メールを活用した保護者への連絡と引渡しの訓練を実施し、実情に応じた対策を検討する。 ・破損や危険箇所の改善に向け迅速な対応を行う。 ・3 歳児が安全に過ごすことができる安全点検、日々の環境設定を見直す。 ・保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、安全を意識した改善を行い、遊びを通して学ぶ場として、子供が活動しやすい環境を整えている」と回答した割合が、８０%以上になる。	A	・避難訓練の前後に子供への指導を行うだけでなく、日常において場面や年齢に応じた方法で災害時の行動の仕方や安全指導を行い、子供自身の安全意識が身につくよう指導してきた。 ・避難訓練後、速やかに反省を行い、災害、防犯のための環境を整えてきた。 ・幼年消防クラブ組替式は、実情に合わせて実施することができ、子供の防火意識を高める一端となった。 ・月一回の安全点検や日頃の遊具点検で気付いた危険箇所について、迅速に職員間で伝達し合い、改善してきた。また、地域の方に協力をいただき、園庭遊具の整備を行い、子供たちが安全に楽しく遊ぶことのできる環境づくりを行った。 ・感染症対策を意識し、パーテーションの使用、遊びの拠点の分散など子供の発達や活動の動線に合わせた環境の見直しを図り、実施した。 ・アンケート結果は９５%以上の肯定的な回答があり、安心安全な園として評価された。	・子供の自ら安全に生活しようとする力を育むために年齢に応じた指導を行うことを継続する。 ・定期的な各訓練において職員自身が様々な状況を想定し、連携を図りながら最善の行動が取れるよう危機管理意識と対応能力の向上に努める。 ・月一回の安全点検では、今後も細部まで確認し、安全に過ごすことができるように素早い改善を進める。 ・引き続き、3 歳児や季節、遊びの様子に応じた安全な環境づくりを職員で検討し、構成していく。 ・様々な危機状況を想定した物的環境の検討、配置を積極的に行っていく。	・平時の時から、危機に対する意識を高めることは大切なことである。 ・かんぬきは閉まっているが、オートロックが確実に機能するようにする。 ・安心・安全に係る対策は、多くは予測できない状況から突如生じる危険に対し、如何に行動が取れるかに係っており、それを補足するには、危機管理の為の意識の向上、体験、訓練が重要であり、年４回の避難訓練及び通報訓練、保護者への一斉メールの活用等職員の安心・安全への取り組みに対し評価をする。

学校関係者評価総括

・子供の主体性を大切にした保育で、劇遊び、参観でも、型にとらわれず行われていて面白かったです。
・一年間の最後である、劇中に使われた道具にも子供達の工夫がつまっていてかわいかったです。
・上記のとおり重点目標の各項目における重点項目について、総じて肯定的評価をさせて頂いたところであり、今後も改善工夫を凝らしての取組に期待をいたします。
なお、何時も申上げるところですが、幼稚園業務において、多忙極まりない様子が見て取れる中、今後とも園内での各事業別評価を職員全員で意見交換され、先例踏襲も必要なことでもありますが、常に新たな取り組み、不必要な事業の見直しなど（事務事業の評価の実施）、スクラップ・アンド・ビルドの方針で業務改善が行われることが肝要かと思います。これがひいては『働き方改革』に繋がるものと思われます。

次年度に向けた重点的な改善点

・引き続き感染症対策をしながら、今年度より状況に応じて行事ができればと思います。
・今年度の運動会は園庭でやりました。近くで子どもが見れてよかったなど、良い意見もありました。小学校の広い運動場でのびのびとやる姿を見れたらなと思います。
・仕事は楽しく、やり甲斐を持って先生１人１人が園の目標に向かって取り組むことが、ひいては対象となる子どもたちへ大きく反映されるものと思われます。更に今年度より３歳児保育をも展開されるなど、幼稚園運営にあたっては官民間の競争が愈々増してくるものと思われます。そのためには、他にない施設環境の整備、特色ある園運営が魅力ある幼稚園に繋がり、ひいては入園児童数の確保はもとより、市内幼稚園の先進施設となるのではと思います。
先生方には一丸となって、そして英断を持って取り組んで頂きますよう希望致します。
・今年度の子供、保育の実態から振り返り、愛情豊かで発達段階に合わせた一人一人の支えをさらに実践する。
・より計画的、組織的に取り組むことで、業務改善をはかりながら、子供、保護者、職員の主体性をさらに育んでいく。

自己評価の基準　　A：目標を上回った　B：目標どおりに達成できた　C：目標をやや下回った　D：目標を大きく下回った